

令和3年8月5日

学校関係者評価委員会 議事録

【委員長・株式会社オンサイト・代表取締役 渡邊】

【株式会社EAM・代表取締役 小野寺】

【岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授・布川】

【株式会社東北共立・代表取締役 岸浪】

【株式会社メディアPR 代表取締役・金塚】

【定禅寺SJF 教会代表理事 武藤】

【株式会社BB グラフィックス・代表取締役 播磨】

【本町新光町内会 会長・落合】

事務局【菅原学園法人本部長 菅原淳】

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 戸叶】

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

【専門学校デジタルアーツ仙台・学生課長 鈴木】

【専門学校デジタルアーツ仙台・主任 深谷】

○開会挨拶

事務局【菅原学園法人本部長 菅原淳】

○学校評価委員会紹介

事務局・学校評価委員、各委員の紹介

○企業連携状況に関する説明

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

資料を基に、職業実践専門課程についての確認。

教育目標として「CAREER COLLEGE」を掲げている。

CAREER COLLEGE とは、「専門力」と「人間力」を身に着けるということを教育目標として掲げている。

○自己評価に関する討議、意見交換

進行：学校評価委員・委員長 渡邊（株式会社オンサイト 代表取締役）

(1) 教育理念・目標

【委員長・渡邊】

専門力と人間力の育成という目標に向かって取り組んでいるが、学校における職業教育の特色はどういったものがあるか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

企業と連携し社会で通用する実戦力を養うことを特色としている。声優アーティストは関東圏の企業と連携していて表現力を身につけるようにしている。イラスト・マンガアニメ科では大手出版社の批評会を実施し育成に努めている。今年度は集英社（ヤングジャンプ）、昨年度は小学館の批評会を実施。コロナ禍のためオンラインでの批評会が多くなっているが、昨年は感染者が減少したタイミングで対面でも実施した。このように実践力を養うという事を特色としている。

(2) 学校運営

【委員長・渡邊】

学校運営に関して自己評価はほぼ4できているが、「h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか」という項目について評価3になっている。現状どういった理由で評価が低くなっているのか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

学園のネットワークの老朽化でWi-Fi環境が整っていない。現在、IT委員会を立ち上げて調査と構築に向けて取り組んでいる。10月ぐらいから新しいネットワークを導入できるように進めている。

事務局【菅原学園法人本部長 菅原淳】

デジタルアーツ仙台のネットワークについては建物的に問題ある。Wi-fiスポットを増やして対応していく。予算をかけて対策を行っていく予定で、現在は調査段階。

(3) 教育活動

【委員長・渡邊】

「1. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか」「m. 職員の能力開発のための研修が行われているか」という項目について評価がほぼ適正の3となっているのが、現状どのような形で取り組んでいるか？

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

コロナ禍で研修の機会が不足している。昨年は新任研修会も中止となった。今年度は少しずつ改善されていて、今年度は新任研修会も実施した。しかし対面での研修は厳しい現状

でオンライン研修会は参加できるものは参加している。ゲームクリエイター科では10月にオンライン研修会へ参加予定だが、現状としては対面研修が厳しい状況で、今後どのように研修を行なっていくべきか模索している。企業でのオンライン研修会について、今後どのようなものになっていくのか聞きたい。

【株式会社メディアPR 代表取締役・金塚】

今の状況的にもオンラインはどの企業も活用している。就職活動でもオンラインを活用しているが、直接会わないと分からないこともある。オンラインはその特色を生かして活用する必要がある。

【委員長・渡邊】

オンラインには限界がある。教職員の研修については難しい課題ではあるが、来年度に向けて何か少しでも前進ができればいいと思う。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

大学の研修会については、どのように行っているのか？

【岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授・布川】

岩手県だと現状は対面で行っているが、例年の半分くらいの数まで減っている。様子を見て対面でできるようになる機会を伺っている状況。

(4) 学習成果

【委員長・渡邊】

「a. 就職率の向上は図られているか」「c. 退学率の低減が図られているか」などが毎年の課題項目になっている。今年度の就職率の向上について現状はどうか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・学生課長 鈴木】

キャリアサポートセンターを立ち上げ学生1名ずつのフォロー体制を拡充している。昨年度はコロナの影響でイベントの自粛が相次ぎ、エンターテインメント業界、デザイン業界は求人数が激減した。本校で一番学生数が多いミュージックスタッフ科の就職活動では非常に苦戦した。卒業後も各担任によるフォローを続けており、少しずつ決まって来ている。今年度の求人はエンターテインメント業界、広告業界共に少しずつ回復して来ている。IT・情報系は例年通り早めに内定が出ている状況。CGクリエイター科については大学生とバッティングし始めていて苦戦している。

【株式会社東北共立・代表取締役 岸浪】

昨年度、(株)東北共立では年明けに採用試験を実施した。コロナ禍でイベントは減っているが、ずっと人手不足が続いていたのでその分の補充として採用を行っている。今年度は6～7月には内定を出している会社が多いと思う。現在様子を見ている状況だが秋口に

どうなるか。コロナは来年にも影響すると思う。感染者数が落ち着いて来てイベントの計画や新卒採用を増やしているが、ここに来て感染者数が増えている。まだ内定を得ていない学生は今後も苦勞すると思う。

【委員長・渡邊】

やはりコロナの今後についてはどの業界も左右される。

「c. 退学率の低減が図られているか」について現状はどうか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

最近ではカウンセリングが必要な学生が非常に多い。カウンセリングを通して支援していきたい。専門学校4校の中でもデジタルアーツ仙台が一番カウンセリングの利用者が多い。退学者の中でも精神的な理由が多い傾向があり、カウンセラーに頑張ってもらっている。中には自傷行為など緊急性を要する学生もおり、クラスに上手く馴染めない学生は上手く馴染めるよう、カウンセラーと連携をとって対応している。出席不良の学生については担任面談等で対応している。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 戸叶】

退学率は全国的には5%以内だと良い学校とされている。本校はその数字を超えてしまう年もあるため、当面の目標としては5%以内の退学率を目指している。しかし精神的な面でカウンセリングが必要な学生が増えているのも事実である。退学希望の学生が出たときの対応は担任の判断が分かれるおり、考え直さないかと説得をする担任もいれば、すぐに退学処理をする担任もいる。学校の職員としては退学防止の策を考えていかないといけない。学生の対応については窓口は各担任だが、状況によっては教頭面談も行いそこで判断する場合もある。また授業料が払えないなどの問題もある為、相談も行いながら判断していく。

(5) 学生支援

【委員長・渡邊】

進路や退学に対する支援にも関わってくるが、学生支援についてはどういった取り組みをしているのか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

まずはカウンセラーと連携を取りながらカウンセリングを強化している。また学生支援として、日本学生支援機構と学校から食の支援として2000円分のQUOカードを配布している。就学支援制度もあり経済的支援と精神的支援を行っている。

【委員長・渡邊】

企業から見てあったら良いと思う支援はあるか。

【株式会社 BB グラフィックス・代表取締役 播磨】

どうしても IT や CG 系の学生はメンタルが弱い傾向がある。学生は自分の世界を持っており、その自分の持っている世界をどう表現するかを考えたときに「もう無理」と諦めてしまう学生もいる。授業では作品作りの基礎を教えるのはもちろんだが、自分の好きな作品を作らせて成功体験の得ることでモチベーションの向上に繋げている。

【委員長・渡邊】

成功体験の形成は退学率や就職に対するモチベーションなど自分形成に関して非常に重要なことだと思う。

(6) 教育環境

【委員長・渡邊】

全体的に評価が3である理由についてはどういった理由があるのか

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

施設については校舎の老朽化の問題がある。実習室によって空調環境の良い教室と悪い教室がある。なるべくサーキュレータで空気を回すようにはしているが不具合も多い。また Wi-Fi の不調などネットワークの強化が求められる。機材については定期的に新機材を導入しており、今年度はCG科で使用するマシンを導入した。

インターンシップや学外のイベントについては、ほぼ出来ていないのが現状。鬼小十郎祭りはキャストオーディションを実施したが、学生が出て行ける場が少なくなっているのを改善したい。

防災については6月にシェイクアウト訓練を実施。密にならないように通常の避難訓練の簡易版として実施した。このようなことから、全てが満点な教育環境ではない。

【委員長・渡邊】

コロナ禍で学生を外に出せない現状はある。例年、定禅寺ストリートジャズフェスティバルでは声優アーティスト科やスタッフ科の学生が携わってきたが、現状どのようなかたちになっているか。

【定禅寺 SJF 教会代表理事 武藤】

昨年と今年はこのコロナ禍で厳しい状況ではあるが、学生と上手く連携をして行きたい。今までは「お願いをされて手伝う」というかたちだったが、これからは学生も「作り上げる側」になり上手く連携をとって実施して行きたいと思っている。

【委員長・渡邊】

今のこの現状もあるので、できる範囲で実施して行ければと思う。

(7) 学生の受け入れ募集

【委員長・渡邊】

今年度の募集状況はどうなっているか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 戸叶】

現在、在籍者数はデジタルアーツ仙台で約580名となっている。コロナの影響もあり若干波がある学科もあった。今年度の募集はAO入学受験者数は昨年度より増えており、このまま行くと昨年よりは良くなるがコロナの影響でどうなるかは分からない。

オープンキャンパスは通常通り実施している。昨年度は無料の送迎バスは中止したが、今年度は夏に送迎バスを運行し参加者も増えて来ている。このように募集については通常通り動いている。

【委員長・渡邊】

オープンキャンパスはほぼ通常通りに行なわれているのか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 戸叶】

コロナの影響もあり昼食の提供を廃止した。その分を受付時間を遅くしている。

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

事務局【菅原学園法人本部長 菅原淳】

財務に関しては適正な運営を行っている。学園の財務内容等についてもHPに全て公表している。

(10) 社会貢献・地域貢献

【専門学校デジタルアーツ仙台・学生課長 鈴木】

デザイン科2年生を中心に本町商店街と様々な取り組みをさせてもらっている。今年度は学生1名1名に各お店を取材させてもらい記事にしている。学生を実際の外のお店に出すのはある程度リスクがあるが、フォローしながら行っている。本町はオシャレなお店が多いので学生も喜んで取材に行っている。

【本町新光町内会 会長・落合】

イベントなどでは以前からお世話になっていて、今後も一緒に街づくりを行って行きたい。

【委員長・渡邊】

コロナ禍のため厳しい部分もあるが、オンラインも活用し地域貢献できたらと思っている。

(11) 国際交流

【委員長・渡邊】

国政交流に関して現状どうなっているか。

【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 井村】

デジタルアーツ仙台では学生の約30%が留学生となっている。コロナの影響で来年以降の募集は心配なところがある。国際交流の一つとして、今までは学園祭があり、留学生は母国の料理を提供する事で地域交流・国際交流ができていた。

【株式会社 EAM・代表取締役 小野寺】

学園祭での食での国際交流とはかたちを変えて、母国の食文化について発表する場を設けるなど国際交流を行ってほしい。海外の方は日本の食文化について興味があり高く評価をしている。自分たちも「知る」ということからコミュニケーションをはかり国際交流に繋げて行くと良いのではないか。

○閉会の挨拶

事務局【専門学校デジタルアーツ仙台・教頭 戸叶】